

吉田俊栄の独り言 その2

月 日 曇り

昨年冬、子供たちとチューリップの球根を植えました。春になって色とりどりの花を咲かせてくれました。同じ花なのに成長の早さは皆違うのです。先頭をきってズンズンと伸びる子、マイペースでぼちぼちとゆっくり伸びる子、白い花を咲かせる子、赤い花を咲かせる子、背の高い子、背の低い子、実に様々です。我々人間の個性もまたそうなのだと思います。私には長男(小1)長女(幼稚園年中)2人の子がいます。彼らへ、つついこち側への願い、思いが一方的になりすぎてしまうことがあるなあと思ふときがあります。子供たちは親の気にいるようふるまってくれているのです。どんなに厳しくしかって泣いた後でも手をつないでくれるし、お風呂も一緒にはいってくれる、つい感情が入り込みすぎてしまったとき彼らの無条件の愛に救われるのです。子供たちと親、一緒に成長させていただいているなあとしみじみ思ふます。むしろ子供たちから教わっていることのほうが多いですね。

日 日 晴れ

講談師の一龍斎貞水(いちりゅうさい・ていすい)さんの「心を揺さぶる語り方」(NHK出版 生活人新書)より

「人前で話をするのに、自信はなければいけません。

ここで言う自信とは、

話術に対する自信ではなく、

自分が何者であるか、ということの自信です。」

「年長者や目上の人を敬い、同輩や年下の者を慈しむ心。

これは気持ちの良い話し方をする上で

絶対必要なものです。」

若い前座の人には「らしく、しなさい。ぶるん、じゃないよ」と厳しく言うそうです。また、「芸には、その人が生きてきて、今生きていてすべてが出ます。」と「らしく生きる」ことを教えて頂いています。自分の心のありようが言葉となって相手の心に届きます。「自分が何者であるか」いつも自分に向き合っていく、素直に見つめることが「自分らしさ」につながるのだと思います。

「言葉」の持つ力はとても大きなもの、日蓮聖人は「災いは口より出る」と言われました。不幸を招くのも、幸せになるのも、すべて自分の心から発せられる「言葉」しだいなのです。

日 日 曇りのち晴れ

私が最近取り組んでいること、それは「メタボ撲滅運動」です。身長165cmにして体重70kgとなり、いよいよ予備軍の仲間入りとなってきました。日中、ジムに行きますと、ヤングオールド(?)の方々に囲まれます。まあ皆さんの明るく、元気なパワーに圧倒されてしまいます。いったい何歳まで寿命を延ばすのでしょうか。我が国の平均寿命を世界トップクラスに押し上げているのはこのヤングオールドの方々なのだとわかりました。私が目指すのは「永遠の30代」です。体重は60キログラム! 三日坊主にならぬようガンバリマス。後日、お会いした時、私に「メタボどうです?」と必ず聞いて下さい。ご協力よろしくお願ひします!

